特集

200万会員を突破した「ひかりＴＶ」を核に
トータルメディア企業を目指すＮＴＴぷらら

インタビュー

ＮＴＴぷららは、トータルメディア企業を目指す

2012年３月末に「ひかりＴＶ」の会員数が200万を突破したＮＴＴぷらら。ユーザーオリエンテッドなサービス展開でブロードバンドサービス市場を牽引してきた同社は、トータルメディア企業への脱皮を目指している。ＮＴＴぷららの事業展開について、板東浩二社長にうかがった。

㈱ＮＴＴぷらら
代表取締役社長
板東 浩二氏

「ひかりＴＶ」の会員数が200万を突破

――４月９日に2012年３月末で「ひかりＴＶ」の会員数が200万を突破されたことを発表されました。はじめにこの成功要因をお聞かせください。

板東　2011年度は、約60万会員の純増と過去最高の伸びになったわけですが、その要因の一つとして、テレマーケティングと量販店の売上が好調だったことがあげられます。また、ＡＫＢ48が出演したオリジナルコント番組「びみょ～」を提供した頃から、会員数拡大に拍車がかかりました。この強力な独自コンテンツが、会員数増加の原動力になったことも功を奏したと考えています。次に、地道な改善努力を重ねてきたことがあげられます。私は、サービスの競争力は、①サービス内容（コンテンツとサービスの品質）、②操作性、③料金のバランスにあると思っていますが、特に操作性について地道に改善を積み重ねてきたことが評価につながったと思います。

ユーザーオリエンテッドな視点での地道な改善活動に注力

――操作性向上に関し、例えばどのような改善を行いましたか。

板東　昨年追加した機能については、裏番組の表示などがあります。コンテンツの並べ方も、ボタン一つで簡単に名前順や人気順などで表示できるよう工夫してきました。また今年度からはレコメンド・レビュー・レーティング機能を追加し、利便性の向上を図っていきます。我々は、常にユーザーオリエンテッドな視点で地道に改善しています。操作性・利便性の高さは、他社に負けていないと自負しています。

先進性・将来性が評価されMM総研の総合格付けでAAA獲得

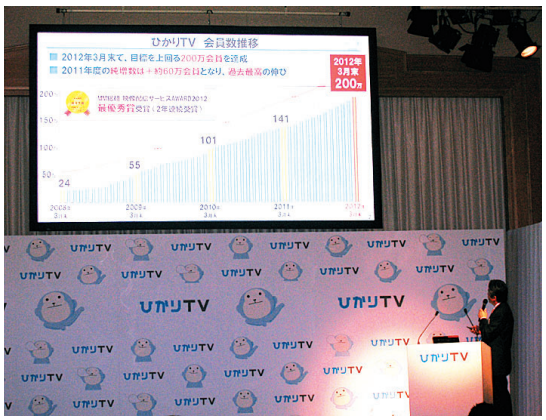
――ＩＴ市場専門調査会社ＭＭ総研の「映像配信サービスAWARD」で2011年-2012年の２年連続となる最優秀賞を受賞されましたが、どのような点が評価されたとお考えですか。

板東　おかげさまで、総合格付けでAAA、２年連続で最優秀賞を受賞することができました。これは「ひかりＴＶ」の先進性が高く評価された結果だと思います。具体的には、スマートフォンやタブレット端末などでVOD（ビデオオンデマンド）作品が視聴できる「マルチスクリーン機能」の提供や、プロ野球ライブ中継でTwitterと連動した新しい機能にいち早く取り組んだことなどが特に評価されたと思います。昨年トライアルで実施したTwitter連動の機能は大変好評だったので、今年の５月から「ひかりＴＶ」の独自チャンネルで放映するパ・リーグ全試合について対応することとしました。このような先進性に加え、将来性や顧客志向性についても高い評価を得られた結果だと思います。

スマートフォンやタブレット端末と連動した機能に注力

――2012年度の重点施策をお聞かせください。

板東　私どもは2008年３月に「ひかりＴＶ」をスタートしましたが、その当時から具体的な事業戦略として３つのステップによる展開を考えていました。第１ステップは、100万人規模のユーザーを早期に集めて、顧客基盤を確立することであり、これは２年で達成することができました。次の第２ステップは、VODサービスのマーケットを構築することでした。この点については、2012年３月現在で１ヶ月あたりのVOD視聴回数は約2,400万回と、国内最大規模の視聴回数を誇るまでになりましたのでほぼ達成できたと思っています。そして第３ステップですが、マルチスクリーンサービスの確立と、映像以外のサービスの展開を考えています。2012年度は、いよいよ第３ステップに突入する時期であると考えています。事業戦略としては、引き続き「操作性・利便性の向上」と「コンテンツの強化」、そして、「マルチスクリーンサービスの確立」「新サービスへの対応」の４点を重点施策としてあげています。昨年度から提供を開始したマルチスクリーンサービスについて、現在は見放題のプランを提供していますが、今年度の早い時期に、作品ごとに購入できる「ペーパービュー機能」を提供する予定です。また、スマートフォンやタブレット端末を使って膨大なビデオ作品を簡単に検索し、テレビ画面で視聴することができる「スマートリモコン機能」を提供します。このほか、下期からはAndroid搭載チューナーの提供も計画しています。このAndroid搭載チューナーは、従来の約10倍の性能を持ち、新たな外部出力を搭載するほかHTML5ブラウザの搭載により快適な動作環境を実現したいと考えています。



2012年３月末に200万会員を突破した「ひかりＴＶ」の会員数の推移を説明する板東社長（右下）

「ひかりＴＶ」のイメージキャラクター「ひかりカエサル」と事業説明会に出演したＡＫＢ48のメンバーと一緒に記念撮影をする板東社長（中央）

写真　2012年４月９日に開催された「2012年度事業説明会」にて

一方、操作性・利便性の向上という観点では、前述したように作品のレコメンド、ユーザー評価、レーティングを掲載するレコメンド・レビュー・レーティング機能を強化するとともに、「ひかりＴＶショッピング」の操作画面をBMLからHTMLに変更することで、ストレスなく利用できるようにします。

トータルメディア企業を目指す

――最後に今後の抱負をお聞かせください。

板東　第３ステップとしてもう一つ、映像配信事業に加えて、ゲームや電子書籍、音楽配信など、映像以外の様々なサービスを積極的に検討し、早々に展開していきたいと考えています。

弊社は、「ひかりＴＶ」による『映像メディア』、ISP・VoIPによる『データメディア』および『音声メディア』、そして「ひかりＴＶ」ユーザー向けに発行する「ひかりＴＶガイド誌」という『ペーパーメディア』をすでに持ち合わせています。これらの各メディアをお客様のご要望に応じて提供できることが強みであり、また新たなビジネスを創造するための武器となります。各メディアの規模をさらに拡大することでトータルメディア企業としての基盤を確立し、さらなる事業の拡大を目指していきたいと考えています。

――本日は有り難うございました。

（聞き手・構成：編集長　河西義人）